

【大意】

漢城にて、父は濟運大軍節度使と称し、本内裏様（朝鮮王朝）の年寄衆の五人の内の一でした。父の名前は金世王温と申し、母の名は洪氏と申します。兄弟姉妹は五人おり、私が惣領でした。乱（文禄の役）のあった年、私は十三歳、次の弟は十一歳、あなたと思われる弟は六歳ほどで、三歳になる妹がありました。そなたの姉は六歳の時に疱瘡で亡くなりました。あなたと思われる弟の手には青い痣、足の辺りにも柿色の痣がございましたが、あなたにもございますか。お答えいただきたい思います。

乱の年には、大おじやおじの知行へ逃げました。それからまたあちこちと逃げ歩きました。その先で敵と遭遇し、山に籠りましたが、十一歳の弟が捕らえられてしまいました。敵が退いてからは散り散りになり、あなたを連れて両親を訪ねて二十日ほど後に再会し、弟を親に引き渡しました。そのうち宇喜多秀家殿から都の住人は皆帰るべきとの触れがあったので、皆は都へ帰って歳を一つ取りました。その春、漢城開城の少し前、屋敷に穴を拵えて隠れましたが敵に見つかってしまい、私と十一歳の弟、私の御女房一人、以上の三人が捕らえられました。その後、あなたは両親とともに何処かへ行ってしまったのだらうと思っていました。この国にお越しになっていたのですか。来日していないだらうと、今まで探しておりませんでした。あなたのもと傍輩の人に高麗でのあなたの有様を詳しくお話しされたことを聞くと、あなたが弟であると思いました。

もしもこの手紙のように手に痣、足にも痣がありましたら、二十日ばかりのお暇にて駿府へお上りください。お目に掛からなければ、同じ特徴をお持ちか知ることにも俣なりません。

酉（慶長十四年）八月十九日

大御所様御内

たあ

平賀勝二郎殿の内

うんなき殿